

初期研修医（ジュニアレジデント）

1	診療科名	移植外科
2	診療科紹介	自治医大移植外科では働き方改革を積極的に進め、メリハリのある勤務体制を実現しています。質の高い医療を提供しながらも、スタッフのワークライフバランスも重視し、充実した研修環境を整えています。 当科では、肝臓、膵臓、腎臓など腹部臓器の移植を専門とした高度な医療を提供しています。年間約25例の生体肝移植および脳死肝移植を実施しており、2001年5月の生体肝移植開始以来、これまでに400例を超える実績を誇ります。生体肝移植では、国内でもトップクラスの成績を収める他、ドナー手術では低侵襲を考慮し、全例に鏡視下での手術を取り入れています。また、近年では脳死下での臓器移植も増え脳死下肝腎同時移植や膵腎同時移植も手がけており、良好な成績を収めています。腎移植チームとの連携も良好で、腹部臓器移植に関わる多くの症例を経験できる点も魅力です。 移植医療は全身を診る総合的な医療です。ゆえに、当科研修では外科的手術のみならず、術前・術後の内科的管理を含めた全身管理を学ぶ機会が豊富です。これにより全身を診るために必要な幅広い知識とスキルを身につけることができ、これから医師としてのキャリアを形成していく若い医師にとって適切な環境を提供します。
3	臨床研修指導医	佐久間康成、大西康晴、眞田幸弘、脇屋太一、岡田憲樹、平田雄大、堀内俊男、大豆生田尚彦
4	研修概要	1. 臓器移植の実践経験：チームの一員として肝移植手術や周術期管理に参加する。 2. 全身管理スキルの習得：移植の術前術後管理を通して、全身を診る能力を向上させる。 3. 基本手技の修得：基本的な手技や処置、腹部超音波による診断技術を修得する。 4. その他：各研修医の志向、要望に応じた研修内容について相談可能。
5	研修内容（方略）	
5-1	1年次	肝疾患管理、周術期管理、腹部超音波検査、採血・末梢点滴、中心静脈カテーテル留置、胸腔穿刺、腹腔穿刺、手術基本手技（縫合・結紮・腹腔鏡手術）、経皮肝生検など
5-2	2年次	肝疾患管理、周術期管理、腹部超音波検査、採血・末梢点滴、中心静脈カテーテル留置、胸腔穿刺、腹腔穿刺、手術基本手技（縫合・結紮・腹腔鏡手術）、経皮肝生検など
6	到達目標 (1) 一般目標（GIO） (2) 個別目標（SBO） に区分して ご記入ください。	GIO：肝移植に関連する術前術後管理を習得する。 SBO： 1. 肝移植の適応基準を理解し、適切に判断できる。 2. 心肺機能や感染リスクの評価を行い、術前術後に患者の全身状態を最適化する計画を立案できる。 3. 周術期管理に必要な採血、点滴、穿刺ドレナージなどの手技を習得する。 4. 腹部超音波法の操作と診断技術を習得する。
7	週間スケジュール	
7-1	月曜日（午前）	カンファ、病棟業務、腹部超音波検査、肝生検
7-2	月曜日（午後）	腹部超音波検査、多職種連携カンファ
7-3	火曜日（午前）	カンファ、病棟業務、腹部超音波検査、肝生検
7-4	火曜日（午後）	病棟業務、腹部超音波検査、カンファ
7-5	水曜日（午前）	手術
7-6	水曜日（午後）	手術
7-7	木曜日（午前）	カンファ、病棟業務、腹部超音波検査、肝生検
7-8	木曜日（午後）	自己研鑽時間
7-9	金曜日（午前）	カンファ、病棟業務、腹部超音波検査、肝生検
7-10	金曜日（午後）	腹部超音波検査、カンファ *土日はフリー

8	経験できる症例	一般的な肝疾患から、希少疾患や小児疾患まで、多岐にわたる症例を経験できます。具体的には以下のような疾患が多いです： ・胆汁うっ滞性疾患（例：胆道閉鎖症、原発性硬化性胆管炎など） ・先天性代謝性疾患（例：ウィルソン病、OTC欠損症など） ・急性肝不全・劇症肝炎 ・小児疾患（例：肝芽腫、先天性門脈欠損症など） ・成人慢性疾患（例：アルコール性肝疾患、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患、ウイルス性肝疾患など） また、臓器移植を必要とする1型糖尿病や慢性腎不全症例も担当します。
9	指導医からのメッセージ	出身や性別を問わず、どのような志をお持ちの方も大歓迎です。みなさんの個性や要望に合わせた柔軟な研修が可能です。是非、一緒に働きましょう！